

千葉県における食品ロスに関する事業者アンケート 調査結果について

令和5年3月24日
循環型社会推進課

「千葉県食品ロス削減ネットワーク会議」の意見を踏まえ、食品ロス削減に向けた効果的な取組を検討するための基礎資料を得ることを目的として、県内の食品関連事業者（約1,100者）を対象にアンケート調査を実施しましたので、その結果を報告します。

1 結果概要

- ・食品ロス削減の重要度に関する意識を尋ねたところ、売上高等の規模が小さい事業者において「重要と思う」割合が低くなっていた。
- ・食品の廃棄量の把握について尋ねたところ、売上高等の規模が小さい事業者において「廃棄量を把握していない」割合が高くなっていた。
- ・食品廃棄の発生量に係る回答から、売上高等に対する発生量（発生原単位）を算出したところ、外食産業が最も高くなった。また、売上高等の規模が小さい事業者において発生原単位が高くなった。
- ・食品ロスの内訳・発生要因について尋ねたところ、外食産業においては「お客様の食べ残し」が53%を占めていた。
- ・フードバンク活動への協力状況、今後の協力意向について尋ねたところ、「フードバンクへの規格外品・余剰品等の食品提供」について「すでに協力している」「今後協力できそう」の回答が18%であった。
- ・行政に期待したいこと、要望等について自由記載で意見を求めたところ、以下のような回答があった。

（一部抜粋）

- ・食品ロスはチャンスロスと位置付けられており、削減が難しい。
- ・事業者ばかりでなく個人個人が理解していただけないと行政とお客様の板挟みになる。
- ・店側からお客様に対して食品ロスとなる行為を咎めることはできない。行政が幅広く全体的に啓蒙活動を行ってほしい。
- ・時に売り切れの商品があってもいい社会思想が必要ではないか。
- ・フードバンクの情報を行政から提供してほしい。

2 調査結果を踏まえた今後の取組

(1) 協力事業者の登録促進

- ・食べ残しの削減に取り組む「ちば食べきりエコスタイル協力事業者」の登録を引き続き促進するとともに、協力事業者の対象範囲を拡大

(2) 事業者の取組事例の紹介

- ・中小規模を含む事業者に対し、事例共有による取組普及を図るため、取組事例を収集して県ホームページ等で紹介

(3) 消費者の行動変容のための啓発

- ・「ちば食べきりエコスタイル協力事業者」と連携したPRの実施
- ・食品小売業者と連携し、買ってすぐ食べる場合に棚の手前から商品を取る「てまえどり」の呼びかけの継続、対象店舗の拡大
- ・環境月間（6月）、食品ロス削減月間・3R推進月間（10月）を中心に各種イベント等での啓発を実施

(4) フードバンク活動に対する理解促進

- ・各種イベント等におけるフードドライブの実施
- ・フードバンクに関する情報収集を県ホームページ等で紹介

<調査概要>

① 回収結果

業種	発送先の数	回答者数※	回答率
食品製造業	170	51	30.0%
食品卸売業	200	32	16.0%
食品小売業	368	52	14.1%
外食産業	375	48	12.8%
計	1,113	183	16.4%

※廃業等を除く有効回答数。

② 調査項目

- ・回答者の業種と売上高等、食品関連事業所数
- ・食品ロス削減の重要度に関する意識
- ・取組の実施率等、特に成果につながっている取組
- ・食品の廃棄量の把握方法
- ・食品の廃棄状況
- ・食品ロスの内訳、発生要因
- ・フードバンク活動について
- ・意見等

※詳細は別添報告書のとおり。